

支援基金だより

Vol.11

2024 Jul.

支援基金担当理事からのご挨拶

平素より、島根大学に格別のご高配を賜わり、誠にありがとうございます。
島根大学は、意欲と能力のある学生の取組を応援するとともに、希望を胸に入学してきた彼らを経済的な理由で学業断念に至らせることのない大学を目指し、かねてより皆さまに寄附を募りお預かりした「島根大学支援基金」によって学生をできる限り支援し、学びの環境を維持するよう努めてまいりました。

本学では約半数の学生が奨学金を受給しておりますが、昨今その生活に急激な物価上昇が影を落としています。そのようななか、経済的困窮のために食費を削って対処している学生たちに対して、本学独自の奨学金の支給、授業料の免除、食料の配付、また栄養バランスの取れた100円弁当の販売など種々の配慮をなすことができ、健やかに学びを継続している学生の姿を目にできますことも、ひとえに皆さまの温かいご支援あってこそのことと、感謝の念にたえません。

支援基金においては、意欲と能力を備えた学生の海外留学の挑戦にも活用させていただいております。ご支援を受けて留学を果たした若者は、多様な文化を経験して視野を広げ、一回りも二回りも大きく成長した姿で帰国し、周囲の学生たちに刺激を与え、大学全体また地域社会に活気をもたらしてくれています。

また、支援基金により本学を応援してくださる皆さまと、絆を深めていくことを目的とした、島大会員制度がございます。会員の皆さまへの感謝の気持ちをお示しする機会として、定期的に「島大会員のつどい」を開催し、支援基金を活用した学生支援事業の紹介や、支援を受けた学生たちの体験発表、また会員の皆さまと本学との意見交換・交流の場などを設けておりますので、ぜひ、島大会員にもご加入ください。

卒業生、保護者、企業そして地域の皆さまから頂戴した温かいご支援は、未来を担う本学学生の成長につながり、一人一人が皆さまへの感謝の思いと明日への希望を抱いて、社会へと旅立つことができます。

国から国立大学への運営費交付金が年々削減されていくなかで、支援基金は学生を応援する本学独自の貴重な財源となっております。どうか、本基金の趣旨にご理解ご賛同いただき、継続的なご支援を賜わりますよう、心よりお願い申し上げます。



支援基金担当理事
金山 富美

令和5年度支援基金 決算報告

令和5年度は、皆さまから39,429,130円のご寄附をいただき、延べ5,862名の学生と学生サークル29団体に合計21,599,653円の支援をすることができました。厚く御礼申し上げますとともに、引き続き皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※D区分は学生のニーズにあった奨学金の募集要件及び支援額の見直しのため、奨学金を支給しませんでした。令和6年度から学生への支援を行います。

※G区分は令和6年度から学生への支援を開始いたします。

※H区分、I区分は事業を安定的、継続的に実施するため、一定額を財源として確保する目的で令和5年度は支援を実施していません。

令和5年度支援基金による支援の実績

事業名	人数	金額
A 経済的理由により修学が困難な学生に対する支援	31	8,200,000
夢チャレンジ奨学金	11	2,200,000
大学院修士課程等進学支援奨学金	20	6,000,000
B 大学の教育・研究活動等に対する支援	5,717	6,732,703
グローバルチャレンジ奨学金	12	1,400,000
中長期インターンシップ奨学金	9	270,000
学生ベンチャースタートアップ支援奨励金	2	300,000
物価高に対する学生支援100円ごはん事業	5,694	1,992,900
学生団体等支援事業	29団体	1,779,001
音楽教育振興基金事業	-	370,802
医学部附属病院脳神経内科研究支援基金事業	-	620,000
C 附属学園の教育活動等に対する支援	-	499,950
附属学校園教育環境整備事業	-	499,950
D 次世代たたらプロジェクト参画学生等に対する研究等支援	-	-
E 学生、不安定な雇用状態にある研究者の研究活動に対する支援	83	1,517,000
大学院学生に対する学会発表等に関する奨学金	83	1,517,000
F しまね未来人材育成に対する支援	31	4,650,000
県内定着奨学金	31	4,650,000
G 外国人留学生に対する支援	-	-
H 医学部附属病院に対する支援	-	-
I 医学部に対する支援	-	-
合計	5,862	21,599,653

※学生団体等支援事業の人数は含まない。

支援基金 HP

<https://www.fund.shimane-u.ac.jp/>



支援学生の声

留学や海外研修等にチャレンジする学生にグローバルチャレンジ奨学金を支給しています。令和5年度にグローバルチャレンジ奨学金を受給して長期留学をした学生の体験記事を掲載しています。このほかにも、支援を受けた学生の感謝の声をホームページで公開していますのでぜひご覧ください。



HPIはこちら

令和5年度グローバルチャレンジ奨学金受給者

医学部医学科 廣兼 和沙さん

私は令和5年1月から10月の10か月間、アメリカのフロリダ大学に留学しました。新型コロナウイルスのパンデミックで海外に渡航できない期間もチャンスを探し続け、やっと実現できた夢の留学でした。大学ではジェンダーやグローバル倫理等、多様性のあるアメリカならではの分野に触れ、新たな視点を学びました。さらにフロリダ大学病院の見学やグローバル倫理分野での研究インターンシップなど、様々な課外活動を通して将来につながる経験を積むことができました。私生活では寮で様々な背景を持つ学生たちと出会い、今も連絡を取りあう一生の友人を世界中に持つことができました。今回の留学で学んだことを生かし、将来は国際保健に貢献する医師を目指して努力を続けます。また、これから留学に挑戦する島大生をサポートするための活動を行う予定です。最後になりましたが、今回ご支援下さった皆さまに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



友人たちとフットボールの試合観戦
(写真左端が廣兼さん)

人間科学部人間科学科 伊達山 翔さん

私はアメリカのアーカンソー大学に約9か月間の留学をしました。留学中は、主にデータサイエンスの授業を履修しており、課外活動では、International Culture Teamの一員として、校内外で日本文化の紹介を行っていました。留学をして良かったことのひとつが、どんな環境にいても変わらない自分の芯を再発見できたことです。留学当初は、いわゆる座学よりも、現地の人との関わりの方を大切にしたいと感じていました。しかし、すべて全力でやり抜くことが一番自分らしいと早々に気づくことになったのです。それ以降、勉強と余暇の両方でもとにかく何でも挑戦し、大変さを感じつつも、充実した日々を送ることができました。全く新しい環境に身を置く機会があったからこそ、自分の携わる全てのことに常にベストを尽くすという自身の核の部分再認識できたと考えています。皆さまからのご支援により、この貴重な学びの機会を得ることができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。



ICT (International Culture Team) のイベントで折り紙を教えたときの様子 (写真中央が伊達山さん)

島大会員のつどい

3月16日(土)に「第7回島大会員のつどい」を開催し、落語家の春風亭橋蔵様をお招きし、21名の会員にご参加いただきました。春風亭橋蔵様は「動物園」と「試し酒」を披露されました。春風亭橋蔵様の巧みな話術で、会場は笑いに包まれ、非常に楽しいひと時となりました。

この島大会員のつどいは、今後も継続的に実施していくこととしております。なお、次回は10月13日(日)の松江キャンパス大学祭に合わせて開催するホームカミングデーに島大会員の皆さまもお招きする予定です。詳しい内容については改めてご案内させていただきますので、ぜひご参加ください。



春風亭橋蔵様

※島大会員(永年会員・年会費無料)は、支援基金へ5,000円以上ご寄附いただいたことのある方はどなたでもご加入いただけます。入会ご希望の方は、ご寄附の際に島大会員入会希望欄にチェックしお申込みください。